

# 第5回フォーラム

## 生活産業部会

2022年上期の振り返りと今後の展望

2022年9月5日

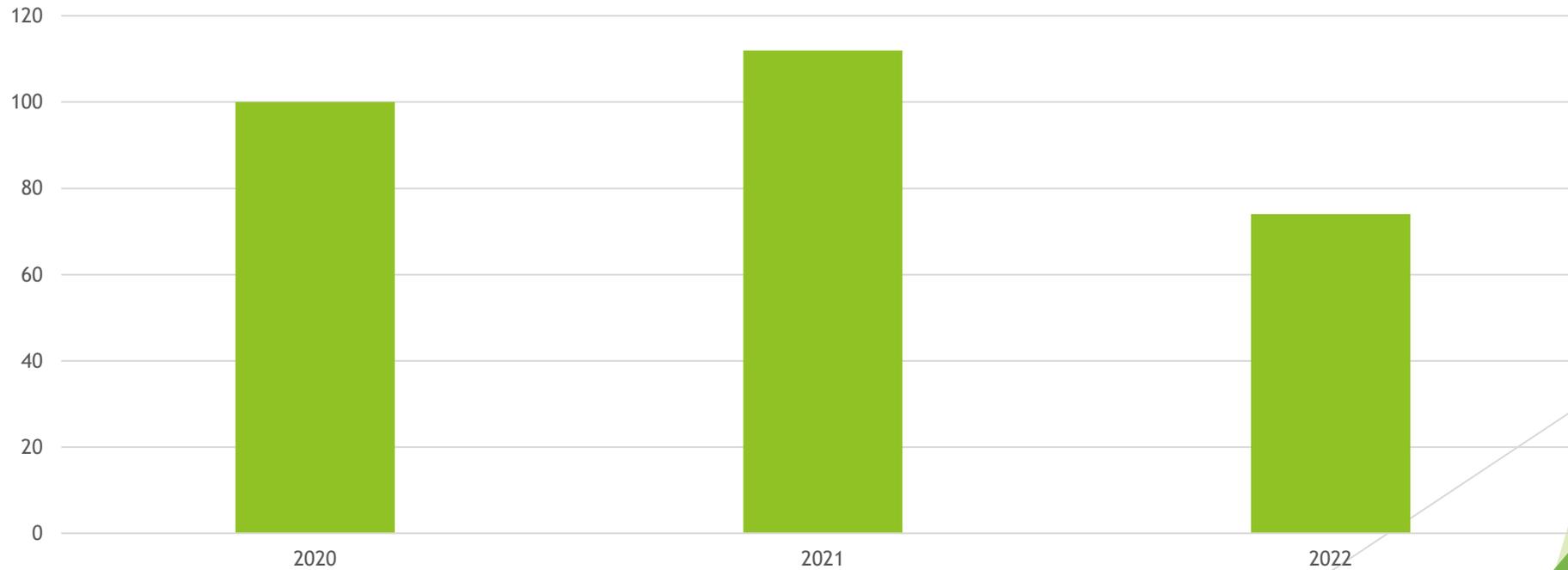
## 本日の内容

- ▶ 1. 建設・不動産関係の2022年上期振り返り
- ▶ 2. 繊維関係の2022年上期振り返り
- ▶ 3. 建設・不動産関係の2022年通期展望
- ▶ 4. 繊維関係の2022年通期展望
- ▶ 5. 地政学的に見たブラジル市場
- ▶ 6. 各社リモートワーク状況

# 1. 建設・不動産関係 2022年上期振り返り

## 業績推移（各社単純平均）

受注金額比較



# 1. 建設・不動産関係 2022年上期振り返り

## <建設関連>

- ・ 受注競争の激化により厳しい状況
- ・ 案件数は増えているものの、現実の価格上昇を考え、慎重な対応が必要
- ・ ウクライナ戦争の影響からくる物価上昇により給料上昇圧力が強く、工事現場の採算を圧迫

# 1. 建設・不動産関係

## 2022年上期振り返り

### <不動産関係>

#### 売買市場

- ・ 相談案件は多少の落ち着きを見せている  
新築物件の㎡単価上昇（一部40%近い上昇も）

#### 賃貸市場

- ・ 駐在員赴任活動の回帰（コロナ禍前の水準）
- ・ 家族帯同者の増加と単身赴任者の減少により  
アフターサポートニーズが増加

# 1. 建設・不動産関係 2022年上期振り返り

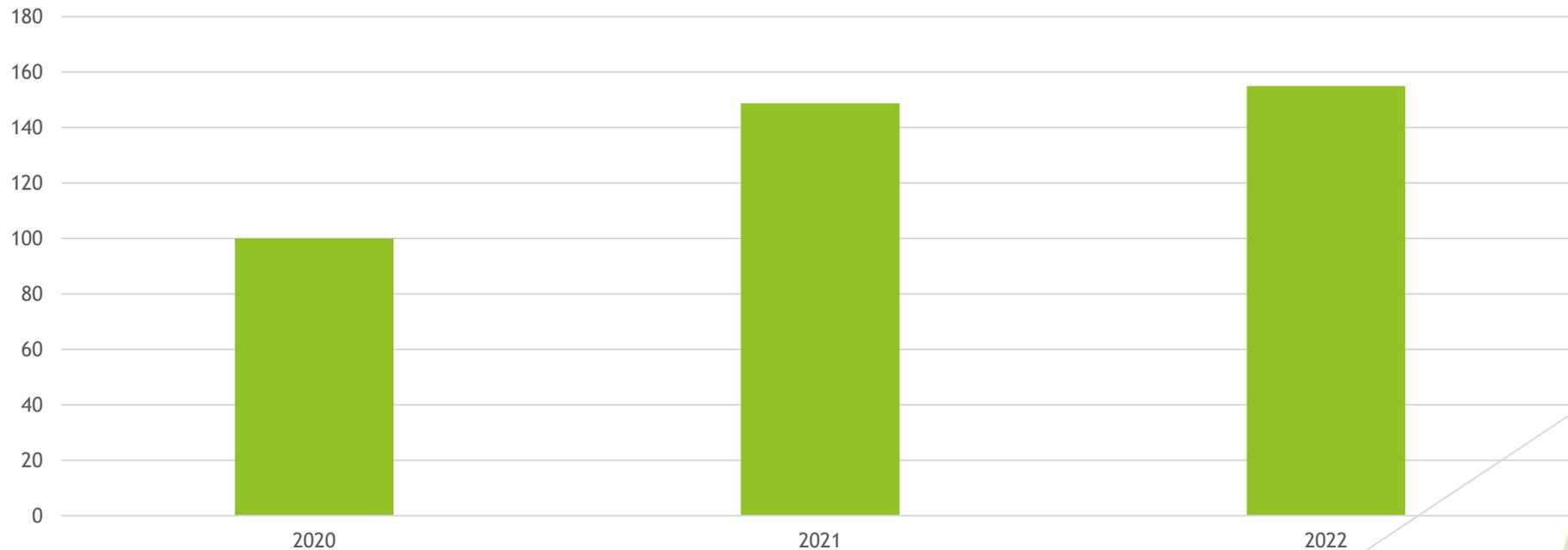
## <エネルギー関係>

- ・原料・資機材価格の高騰・インフレによるコスト上昇により客先の発注判断が慎重
- ・大統領選挙を見据えた政治的思惑・各種暫定措置がコストアップ要因を抑制している側面もあり、事業環境の不透明感が高まる

## 2. 繊維関係 2022年上期振り返り

### 業績推移（各社単純平均）

売上金額比較



## 2. 繊維関係 2022年上期振り返り

- ・ 衣料製品の販売落ち込み  
高インフレ・高金利の環境下において、消費者の衣料製品の買い控えが顕著。
- ・ 原料相場の高騰  
ロシアによるウクライナ侵攻で穀物相場が上昇し、綿花相場も連れ高。その後、主要綿産国の天候不順から、さらに高騰。

## 2. 繊維関係 2022年上期振り返り

原料価格の高騰は、販売価格に転嫁することができれば、売上金額の増加につながるが、利益面では苦戦が予想される。

- ・半導体不足の影響

引き続き半導体不足の影響により、特に自動車関連需要が低調

### 3. 建設・不動産関係 2022年通期展望

#### <建設関係>

- ・ 大統領選挙、国政州知事選挙、およびW杯の影響が懸念される
- ・ 企業の投資が停滞すると考えられるため、建設の発注が延期・中止になる恐れあり

# 3. 建設・不動産関係 2022年通期展望

## <不動産関係>

### 賃貸市場

- ・さらなる活発化を予想
- ・新築物件が出回り始め、オプションの増加期待
- ・賃貸相場の上昇は避けられない状況
- ・築古物件で成約できない物件は増加

# 3. 建設・不動産関係 2022年通期展望

## <不動産関係>

### 売買市場

- ・ Selicの上昇とレアル安の継続が見込まれるため  
今年度は好調が継続することを期待

# 3. 建設・不動産関係 2022年通期展望

## <エネルギー関係>

- ・ 現在の変化の激しいマクロ環境や、来月の大統領選挙を見据えた政治的各種暫定措置による客先の発注判断延期が懸念材料
- ・ 事業環境の不透明性が高まっており、事業計画達成は楽観視できない

## 4. 繊維関係 2022年通期展望

- ・衣料品消費の減少傾向が顕著になる。
- ・原料相場の高騰により、売上高の確保ができてても販売数量面での確保は困難、また利益も苦戦。
- ・大統領選、W杯の影響が不透明要因。
- ・半導体不足の状況改善の兆しが見られず、自動車用途の販売回復には時間を要する。

## 5. ウクライナ危機の影響と地政学的に見たブラジル市場

### <建設・不動産・エネルギー関係>

- ・ウクライナ危機が直接的に影響を与えている印象は少ない。
- ・ただし、コモディティ価格の上昇が電力、エネルギー価格の上昇を招くが、現在は政治的思惑で抑制対策が行われている。

## 5. ウクライナ危機の影響と地政学的に見たブラジル市場

### <繊維関係>

- 直接的影響は少ない。
- 綿花生産における農薬や肥料の価格上昇、供給不安が顕在化しており、来年度の原料供給に影響を与えることが懸念される。
- 地政学的には中国、欧州、米国、インド企業のブラジル市場での今後の動向に注視したい。

## 5. ウクライナ危機の影響と地政学的に見たブラジル市場

### <繊維関係>

- ・ S D G s についてはブラジルの豊富な自然環境において、メリットを発揮できると考える。

## 6. 各社のリモートワーク状況

### A社

コロナ拡大を見てリモートワークを増減して対応していたが、現時点では全出社。今後も状況に応じてフレキシブルに対応する予定。

### B社

引き続きリモートワークを採用している。オンライン処理やデータ化に取り組む予定。

## 6. 各社のリモートワーク状況

### C社

引き続き本社勤務従業員の出社は任意としているが、取引先が面会での面談を求めるケースも増加しており、出社頻度は増加傾向。

### D社

現在は通常出勤としている。

## 6. 各社のリモートワーク状況

### E社

工場は全員通常勤務としているが、サンパウロ事務所は在宅勤務併用としており、今後も継続予定。

### F社

現在ハイブリッド・テレワークを検討中。

## 6. 各社のリモートワーク状況

G社

工場は通常勤務。

サンパウロ事務所は、これまでは出勤は任意としていたが、今後は週2回の出社を義務付ける予定。

ご清聴ありがとうございました